ひょうご国際ビジネスサポートデスク通信

2024.11 月号
vol.26

人々の生活スタイルを劇的に変化させる－中国の宅配代行サービス

広州デスク　植 兆俊

皆さんは宅配代行サービスを頼んだことがありますか？今ではスマートフォンが普及して宅配代行は当たり前のサービスですが、日本では一昔前までは近所の飲食店に直接電話をして出前を頼むのが一般的だったのではないでしょうか？もちろん、中国も今は宅配代行が主流です。10 年ぐらい前までは近所のコンビニ、酒屋、飲食店、薬局の電話番号をすべてメモして宅配をお願いしていました。それがここ数年で、ありとあらゆるものが宅配代行で入手できるという時代になりました。

想像してみてください。起床して、歯を磨いている間に予約しておいた朝食が届きます。頭痛がするので痛み止めを注文すると、最短 28 分で届きます。お昼ご飯はアプリのクーポンを使って５０％引きで、これも時間通り宅配されます。夕食は久しぶりに自炊することにして、これまたアプリで食材とお酒を宅配してもらいます。朝から一歩も外に出ていません。これが現代中国のライフスタイルです。

どうしてこのような事が可能なのでしょうか？それは「騎手」という宅配専業の電動スクーター運転手の方々がいるからです。日本語で「騎手」というと堅いイメージがありますが、そんなことはありません。皆アプリ会社ごとにカラフルなユニフォームを身にまとい、自らの“愛車”に跨りながら、街中を颯爽と走り抜けます。広州には約 11.4 万人の「騎手」がいます。なんと雇用労働者の約６分の１にあたります。“愛車” はいろいろな工夫が施された電動スクーター。後部座席には品物を入れる大きなケース。足元には外付けバッテリー。バックミラーと携帯ホルダーをハンドルに付け、リアルタイムでアプリから送られてくる宅配オーダーをチェックしています。

オフィス街を颯爽を走る騎手
（筆者撮影）

ご縁があって、以前杭州で宅配サービスの騎手をしたことがある若者と知り合うことができました。お話を聞いてみると、思っていた以上に奥深い世界でした。

1　「騎手」になるハードル、高くない？

携帯電話さえ持っていれば誰でも宅配騎手になれます。電動スクーターは業者からレンタルでき、ヘルメットなどの装備は最初の給料から引き落とされます。初期投資は効率を上げるための外付けバッテリーぐらいしかありません。各エリアにある宅配ステーションに行けば、意外と簡単に始められます。もちろん、犯罪防止のため身分証明書の登録は必須です。

2　携帯に頼るな、頭を使え！

アプリアカウントから登録をして、さぁ、いよいよ宅配スタート！宅配依頼は自動的に送信されるシステムです。騎手レベルが上がるごとに宅配費が高いオーダーが送信されます。どうやってレベルをあげるのか？時間通りに宅配するのみです。オーダーが入ると、カウントダウンが始まります。距離によって時間が決められ、制限時間内に宅配を完了させなければなりません。アプリ上でも地図の案内はありますが、ベテラン騎手には頭の中に自分で編み出した“極秘近道地図”があります。

3　複数の宅配オーダーを一気に受注

最近では音声機能が付いたヘルメットも誕生し、手慣れた騎手はアプリ上でアナウンスされた宅配オーダーを音声のみで把握し、一瞬で住所を特定し受注をします。複数のオーダーを受け掛け持ちをするのです。彼は一度に７件の掛け持ちを行い、20 分で 200 元（約 4,000 円）を稼ぎ出したこともあります。一日 12 時間、朝と夜のラッシュ時に掛け持ちを成功させると、日収 500 元（約１万円）も夢ではありません。※広州の飲食店舗スタッフの平均給与は月額 5,060 元（約 10 万６千円［出典：JETRO］）

◀ 信号待ちをしながら、注文確認をしている騎手たち
（筆者撮影）

4　危険も伴う宅配レース

「私の師匠だった人が交通事故に遭いました。“ちょうど掛け持ちを完了して儲けたから、今晩おごるよ！” という電話の後だった。」と彼は話してくれました。時間通りに届けることができなければペナルティーもあり、給料が減るので無理をしてしまうのです。広州の外来救急患者の 8 割ぐらいが電動スクーター関連であるとも報道されている中、宅配騎手のケガが後を絶ちません。騎手はステーションで騎手保険に必ず加入しますが、ぜひ更なる対策を練ってほしいところです。

家から一歩も出ずに生活できるこの時代、雨風の中、頑張っている「騎手」たちがいるのを忘れてはいけません。彼ら「騎手」が大都市を支えているといっても過言ではありません。2024 年８月９日、中国で封切りされた《逆行人生》、宅配サービスの騎手を題材とした映画です　。本稿の内容よりも濃く、面白い映画です。興味のある方は、ぜひ一度ご覧ください。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界10カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。
本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行　公益財団法人ひょうご産業活性化センター　ひょうご海外ビジネスセンター】